



三徳開教110年

# 法音

今月のご法話

心の泥を落としましょう

12月号 平成29年 No.578



日蓮宗 法音寺



# 一人が一人を

## 是非一人は

是非一人は、仏となれる人に導きましよう。  
法華経には、一人を導く功德は広大である  
とあります。

その一人が、他の人を導く功德が又大きい  
のです。

ついに一人を導く人が仏となります。

一人を導く人が極楽に住む人となります。

一人一人が極楽に住む人、仏になるのです。

御開山上人御遺訓『おりにふれて』

## 月刊・法音

平成二十九年十二月号「578」

■目次

### 【信仰の指針】真楽

【朝のこない夜はない】

心の泥を落としましよう

山首 鈴木正修

### 特集

法音寺三原支院 三徳布教の新道場落慶

■ 顕修院日達上人の御祥月命日法要が執り行われます

■ 有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください

■ 御開山会のお知らせ

■ 特別企画・聖の教え（二十四）

■ とこのはの記 大黒さまと鬼子母神さま

■ 読者の声 永見喜美子（静岡支院）

■ のりのもと 西に東に 転法輪・支院だより

■ 御守・御札のご紹介

■ 福祉のひろば ニコニコ子育て〜保育の現場から⑦

■ 福祉に生きる 障がい者支援施設

■ 日本福祉大学看護学部 看護・介護の現場と産業疲労研究者との対話

■ 賛助員ご芳名

■ 幸せの種まき／編集後記

■ 連載まんが・ひまわり・60 おじいさんの記憶

■ 書籍のご紹介

■ 法音寺の社会福祉・教育事業

### 表紙題字・信仰の指針 山首上人さま

表紙写真・サザンカ

掲載写真 表紙・信仰の指針・3〜19頁・23頁…梅田雅臣氏撮影  
2頁…加納将人氏撮影

信仰の指針

真しん楽らく

深い楽しみを

味わっていますか

日教五





# 朝のこない夜はない

山首 鈴木正修

# 心こころの泥どろを落おとしまししょう

人前ひとまえですピーチをするのが好きすという方かたはあまりおられないと思おもいますが、私わたしも苦手にがてな方ほうです。日達上人にったつしやうにんはユーモアまじを交まじえて上手じやうずにされていましたが、私わたしはどうも苦手にがてです。いつもご法話ほうわをしているから5分ふんくらいは平気へいでしょう。と言いわれるのですが、短みじかくてもスピーチはなかなかむずかしいものです。知しり合あいのお上人しやうにんにその話はなをしましたら、「ご法話ほうわでしたら1時間じかんでも2時間じかんでも平気へいきですが、私わたしもスピーチは苦手にがてです。特とくに突然指名とつぜんしめいされたりしたら本ほん当とうにあたふたしてしまいますよ」と言いわれていました。

私わたしも、突然とつぜんのスピーチは苦手にがてというより、できるなら遠えん



慮りよしたいのですが、今いまから20年程前ねんほどまえに結婚式けっこんしきでそんな機会きかいがあったのです。

日達上人にったつしょうじんのお知り合いあの方かたのお嬢さんじょうさんの結婚披露宴けっこんひろうえんに、日達上人にったつしょうじんと私わがしがご招待しょうたいいただきました。日達上人にったつしょうじんは主賓しゅひんでした。私わがしはその方かたの親族しんぞくが少ないため、親族席しんぞくせきに座すわって欲しいほいとのことで呼よばれたのです。それをお受うけするにあたり事前じぜんに「スピーチは無ないですよね」と確認かくにんしたところ「無ないです」と言いわれたので気楽きらくな気持ちきもちでいました。そして、当日控室とうじつひびかえしつにいと、その方かたが焦あせった顔かおで私わたくしのところに来こられて「日達上人にったつしょうじんが急に体調たいちようをくずされたようです」席せきになったから、正修上人しょうじゆしょうじん、日達上人にったつしょうじんの代わりかに『主賓しゅひん』をやってももらえないですか」と言いわれました。いきなり主賓しゅひんと言いわれても何なにを話はなしてよいか本当ほんとうに困こまりましたが、ほかの方も頼たのまれればやはり困こまられるだろうと思おもい、仕方しかたな



くお引き受けさせていただきました。しかし冷や汗ものだったのを今も思い出します。その時、どんな時に指名されても話せるようにしておかなければいけないなとつくづく思いました。

テーブルスピーチはよく2S1Wが大事だと言われます。

2Sとは先ずshort(短い)です。長いスピーチはどんなに上手でも好まれません。二つ目はsalt(塩)です。スピーチの中に少し塩味が利いていること、人生訓があることです。Wはwitty(機知あふれること)です。ユーモアがあるのが良いということです。

以前、この2S1Wに合致した話を結婚式で聞いたことがあります。

「賢愚経」という経典のお話です。そのお話とは…。



結婚式の前夜に花嫁のお母さんが花嫁に「結婚後の心得」を教えていました。それを偶然、花婿のお父さんが立ち聞きしてしまいました。お母さんの教えた心得は三つありました。一つ目は「いつでも美しい着物を着ていなさい」でした。二つ目は「毎日、おいしいものを食べなさい」。三つ目は「絶えず鏡を見なさい」でした。それを聞いたお父さんはびっくりして、「こんな贅沢な嫁をもらっては大変だ」と思いましたが、もう結婚式の前夜なのでどうしようもありません。結婚を破棄するわけにはいきません。

結婚式の後、お父さんはお嫁さんの行動をずっと観察していましたが、一向に贅沢をする様子もないし、着る物も質素だし、食事もつましいし、鏡もあまり見ません。「一体どういうことだろう」と思ってお嫁さんに尋ねました。するとお嫁さんは「母親に言われた『美しい着物』とは、





いつも洗濯せんたくをしてきれいな着物きものを着きなさい」ということ  
です。おいしい食事しょくじとは、一生懸命しょうけんめい毎日まいにち働はたらけば食たべる  
物はいつもおいしい」ということです。鏡かがみを見みなさい」と  
いうのは、いつも自分の行いいを反省はんせいしなさい」というこ  
とです」と言いいました。それを聞きいたお父とうさんはいたく感かん  
心しんをしたというお話はなしです。

宗教評論家しゅうきょうひょうろんかのひろさちやさんがこれに関かんしておもしろい  
ことを言いっておられます。

「なるほど、賢愚経けんぐきょうの話はなしは教訓話きょうくんはなしとしておもしろい。しか  
し、私はひよっとしたら、母親ははおやの教えおしは文字通りもじどおの意味いみで  
あっていいのではないかと思うおもう。というのは、日本人にほんじんはあ  
まり家庭生活かていせいかつを大事だいじにしない。外出がいしゅつのときは化粧けいしうして着飾きかざ  
り、外そとでは高級レストランで食たべても、家庭かていではよれよれ  
の普段着ふだんぎでいたりする。それではいけないのだ。楽たのしい家か



庭をつくるべく、もっと日常生活を重視し、外では質素でも良いと思うが、どうだろうか」

作家の山本周五郎さんの短編作品に『寒橋』というのがあります。その中で父親が娘に「女の化粧というものは世の中の飾りと言ってもいいくらいで、薄汚い醜えたような裏店でも、きれいに化粧した女が通れば目のたのしみになる。一時その醜えたような裏店が華やいで見える。つまり春になって花が咲くように、世の中の飾りの一つになるんだ。化粧をするんならそのくらいの気持ちでするがいい」と言っています。

派手に化粧をするのではなく、周りが和やかになるような、身だしなみとしてすることは非常に大事なことです。ひろさんもこの考えだと思います。これは、男



性の身だしなみにも言えることです。身だしなみを整えることは、周りに対する一つの布施かもしれません。

石川真理子さんが書かれた『女子の武士道』という本があります。女性の教養について書かれた本です。この方のおばあさんが米沢藩士の末裔で、厳しくも愛情のある教育を孫である石川さんにされました。

ある時、石川さんが「おばあちゃん、私は自分の顔が好きじゃないの。もっと美人に生まれたかったの。お母さんのように美人に生まれたかったの」と言ったそうです。そこにお父さんがいて、お父さんは非常に落胆したそうです。石川さんはお父さんに顔がとても似ていたのです。お父さんとしては娘が自分に似ていることがうれしくて、また我慢でもありました。ところが娘は「自分の顔が嫌だ」と言



うのがっかりしてしまったのです。その様子を見ておばあさんが笑いながら「お前は美人ではないということはないよ。但し、もっと美人になりたければ、一つ美人になる方法を教えてあげよう。美人は目次第だから、目をきれいにしなさい。目には心映えが現れる。だから明るくきれいな目になりたかったら、明るくきれいな心でいなさい」と言いました。明るくきれいな心でいれば必ず目がきれいになり、美人になれるということです。

美人の基準はその時代によって変わります。現代の美人と平安時代の美人は全く違います。ここで石川さんが言われるのは、永遠に変わることのない基準は太古の昔から今に至るまで、心のきれいな女性は美人だ、ということですよ。おばあさんから教えられたことの一つに「遠い目をせよ」ということがあります。遠くを見るような目つきが大事な



というのです。武士の礼法である小笠原流礼法では「遠山の目付」と言います。遠い山を見るような目つきということです。すぐ目の前を見るのではなく、5メートルくらい先を見るような、壁があっても壁の向こうを見るような目つきをせよ」ということです。日達上人はこういう目をよくしておられました。この目が身につくといろいろな物事が見えてくると言います。

車の運転でも、近くばかり見ていると、パッと人や車が出てきた時に対処しにくいものです。しかし、少し遠くを見るようにしていると、広い視野で物が見えます。これは、歩いている時でも同じだと思います。そして、そういう目つきの人は、人に対してやわらかいとも言われています。人と会って話をする時、じっと相手を見ていたら相手は話しにくいものです。だから、ちよっと遠くを見る目がいい



いというのです。しかし、ずっと目線を外してしまいうのもいいとは言えません。また、目線をきよろきよろしているのもよくありません。相手は気分が悪くなってしまいます。ほかに「気品を感じさせる目遣いをせよ」と言われています。外に出た時はきよろきよろしないように。人をじろじろ見るものではない。一番よくないのは目だけを動かすこと。顔も一緒に向けなさい。その時はゆったりと顔を動かすように。わずかに首をかしげるように。と、とても細かいことを言われました。

また、「眉をいつも開いていなさい」とも言われました。眉を寄せると眉間にしわが寄り、おっかない目つきになるのでよくない。というのです。

石川さんは「たかが目の遣い方一つになんとうるさいことかと思われるかもしれないが、目は口程にものを言う

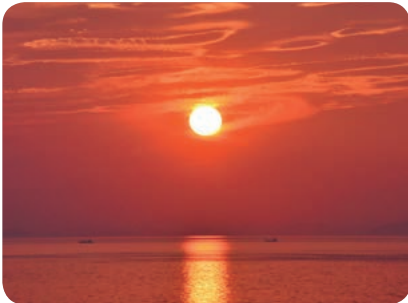


んです。やはり配慮はいりよしたいものです。身みについてしまえば  
どうということはないですよ」と言いわれています。ゞきれ  
いになりたいなら先まずは心こころからぐということですよ。

※どろ『泥かぶら』という絵本えほんがあります。このお話はなしはもともと  
眞山美保まやまみほさんが創作そうさくされた劇げきです。1952年ねんに初演しよえんされ  
てから日本全国にほんぜんこくはもとより、海外かいがいでも上演じよえんされていて、一  
万五千回まいごせんかい以上も演えんじられてきた作品さくひんです。このお話はなしに感かん動どう  
された、くすのきしげのりさんが絵本えほんにされました。

「泥どろかぶら」とは、泥どろの付ついたかぶらのように、みにくい  
女おんなの子このことですよ。

女おんなの子こは泥どろかぶらのように汚きたなく、みにくいということよ、  
子こども達たちからさんざん笑わらわれ、けなされ、石いしを投なげられ、  
つばを吐はきかけられていたのです。かわいそうに女おんなの子こは



親兄弟おやきょうだいもなく、独りぼっちのさみしさから心こころがすさんでいき、粗野そやで荒々あらからしい子こになっていきました。

ある日のこと、女の子おんなこが誰だれに言うともなしに吠ほえるように「きれいになりたい！」と叫さけびました。そこに旅たびの老法ろうほう師しが通とりかかり「そんなにきれいになりたいなら、きれいになる方法ほうほうを教おしえてやろう」と言いいました。その方法ほうほうは三つあり、一つ目めが「自分の顔かおを恥はじないこと」で、自分じぶんに誇ほこりをもてぐということです。

二つ目めは「いつもニッコリ笑わらっていること」です。どんな人ひとからひどい仕打ちしうちを受けてもニッコリ笑わらっていることです。要よするに、堪忍かんにんをすることぐです。

三つ目めは「人の身みになって思おもうこと」です。慈悲じひ深く生きよぐということぐです。

「この三つを守まもれば村むら一番ばんの美人びじんになれる」と教おしえて、老ろう





法師は去っていききました。

「泥かぶら」と言われ、蔑まれていた女の子は、美しくなりたい一心でこの三つの教えを涙ぐましい努力で実行し続けました。どんなに嘲られ、石をぶつけられても、負けるものかと、石を投げ返したいところをぐっと我慢してニコリ笑っていました。そして、慈悲深く、人の身になつて生きよぐということを守つて、重病人のために危険な崖をよじ登りながら薬草を採つてきたり、老人のために山の枯芝を集めて来たり、自分でできる徳積みを一生懸命にやりました。そのうちにその女の子は、人の役に立つのがうれしくなり、楽しくて、仕方がなくなりました。いつしか美しくなりたいぐということも忘れ、ただただ人の喜びを自分の喜びとして働くことに徹していくようになりました。すると周りの人々の態度も変わってきました。友達



もでき、村の人達も本当にその女の子を愛するようになり  
ました。

そんな時、人買いのじろべえが村にやってきました。も  
みじちゃんという体の弱い女の子が、親の借金の形に連れ  
て行かれることになっていました。それを知った「泥かぶ  
ら」と呼ばれた女の子は「私が代わりに行く」と言いまし  
た。すると人買いが「これからどんな目に遭うのかわかっ  
ているのか」と言いましたが、「知らないけど私が行く。  
もみじちゃんは体が弱いし、かわいそうだから。私は身寄  
りもないし、私を連れて行って。私なら丈夫だから、どん  
なことでも耐えられるよ」と言い、人買いに連れて行かれ  
ました。

この人買いとの旅の途上でも、老法師の三つの教えを守  
り続けました。その姿を見て人買いが「売られて行くとい



うのに、お前は<sup>まえ</sup>どうしてそんなに<sup>あか</sup>明るくして<sup>あか</sup>いられるのだ」と聞<sup>き</sup>くと、「自分<sup>じぶん</sup>はもみぢちゃんを<sup>たす</sup>助けられて<sup>しあわ</sup>幸せなんだ。人の<sup>ひと</sup>役に<sup>やく</sup>立つことは<sup>たの</sup>楽しい。そして、おじちゃんをお父<sup>とう</sup>さんのように<sup>かん</sup>感じるんだ」と言<sup>い</sup>いました。そのうちに、その優<sup>やさ</sup>しき、愛<sup>あい</sup>情<sup>じょう</sup>にあふれた<sup>こころ</sup>行動<sup>こうどう</sup>に心<sup>こころ</sup>を打<sup>う</sup>たれたじろべえが独<sup>ひと</sup>り言<sup>こと</sup>を言<sup>い</sup>います。

「どうしちまったんだ。悪い<sup>わる</sup>ことしかしたことのねえオレが、柄<sup>がら</sup>にもなく優<sup>やさ</sup>しくなっちゃまってよ。しかし、あの子<sup>こ</sup>をこのまま親<sup>おや</sup>方<sup>かた</sup>のところへ<sup>つ</sup>連れて行<sup>い</sup>ってもいいものか。かとい<sup>い</sup>ってあの子<sup>こ</sup>を逃<sup>に</sup>がすって<sup>わけ</sup>訳<sup>わけ</sup>には…。いや、待<sup>ま</sup>てよ。そうだ、オレが消<sup>き</sup>えればいいんだ。あの子<sup>こ</sup>の前<sup>まえ</sup>からも、鬼<sup>おに</sup>のよ<sup>う</sup>な親<sup>おや</sup>方<sup>かた</sup>の前<sup>まえ</sup>からも。そうすりゃ、もしオレが見<sup>み</sup>つかって<sup>う</sup>どんな目<sup>め</sup>に<sup>あ</sup>遭<sup>あ</sup>おうともあの子<sup>こ</sup>は無<sup>ぶ</sup>事<sup>じ</sup>だ。生<sup>う</sup>まれて初<sup>はじ</sup>めてだ<sup>が</sup>、オレもあの子<sup>こ</sup>のよ<sup>う</sup>なことを<sup>し</sup>して<sup>みる</sup>か。ふっ、さん



ざん悪いことをしてきたぶん、いいことを一つするにも命  
がけだぜ」

そうして、女の子が寝ているうちに、じろべえはすつと  
いなくなりました。月明りで女の子が目覚ますと、じろ  
べえの羽織がかけられていて、近くの大きな木に手紙があ  
りました。その手紙にはこう書いてあったのです。

「お前はオレのような悪人にまでよくよく親切にしておく  
れだった。オレは正直で優しいお前の寝顔を見ていて恥ず  
かしくなった。それから胸の奥が温かくなったよ。オレは  
今日から人買いなど辞める。良い仕事をしようぞ。お前は  
これからも変わらず、誰にでも親切にしておやり。金を二  
両置いておく。もっと置けると良いのだけれど、オレも貧  
乏だから勘弁しておくれ。お前の優しい笑顔、お前の明る  
い笑い声。オレは一生忘れない。ありがとうよ。どうかど



うか幸せしあわになつておくれ。じろべえ。仏さまほとけのように美し  
い子こへ」

手紙てがみを読み終え、それまで「泥かぶら」と呼ばれた女の  
子が自分の顔かおを水みずに映すと、月明りに照らされたその顔は、  
旅たびの老法師ろうほつしが言ったとおり、なんともやさしく、美しく、  
幸せしあわそうに輝かがやいていたのです。

この絵本えほんの結びむすには「人はみな、心こころについた泥どろを落とす  
ことができれば、まっ白しろな美しいまごころが表おもてにもあきら  
かになるのでございます。：そう、心こころについた泥どろを落とす  
ことができれば」とありました。

※『泥かぶら』原作 眞山 美保

文 くすのき しげのり

絵 伊藤 秀男

出版社 瑞雲舎



特集

法音寺三原支院 三徳布教の新道場落慶

山首上人さまご挨拶

一言ご挨拶を申し上げます。

本日は待ちに待った法音寺三原支院新本堂落慶の喜びの日であります。

この善き日に、かくも多数の皆さまにご参列いただきましたこと、衷心より御礼申し上げます。

立派に出来上がりしました新本堂は、輝くばかりの美しい姿を私達の目の前に見せてくれています。

御宝前も光り輝いております。まさに靈山浄土のようです。諸仏善神・三先師・日達上人も、さぞお喜びのことと拝察いたします。

先日、先代・日公上人三回忌にあわせて出版されました『法音寺三原支院開堂40周年記念誌』を久しぶりに読ませていただき、先代・日公上人、妙安法尼ご夫妻の積

功累徳と、お二人を支えられた信仰厚き檀信徒の皆さんの御精進のたまものであるということを改めて強く感じ、報恩の念を深くいたしました。

これからの時代、ますます法華経三徳のみ教えが必要な世の中になっていくと思います。現主管・森野智広上人ご夫妻を中心として、檀信徒の皆さんが異体同心となって、三徳の実行・広宣流布に励まれ、新本堂が三原三徳の根本道場として、より一層輝きを増すことを期待しております。

結びに、新本堂建設にご尽力くださいました関係各位に甚深の感謝を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。皆さま、本日は誠にありがとうございます。

平成二十九年十月二十二日





## 〳 周囲を極楽にできる人を〳

（佛教タイムス記事より  
11月2日付 第2737号）

昨年末から新本堂の建立に着手していた日蓮宗大乘山法音寺（鈴木正修山首、名古屋市昭和区）の三原支院（森野智広主管、広島県三原市）。工事を終えて10月22日、鈴木山首を迎えて盛大に落慶式が営まれた。慈悲・至誠・堪忍の法華経三徳布教の道場に新たな風が吹き込まれた。

御宝前には日蓮聖人像および曼荼羅に加え、三徳布教の先師である始祖・杉山辰子、二祖・村上齋、開山・鈴木修学、法音寺第二世・鈴木宗音の各聖の尊影を安置し荘嚴。

その新本堂には各地区支院の主管や僧侶が三原支院檀信徒とともに参座し、導師を務めた鈴木山首のもと、力強い読経と唱題で祝った。

法要後の挨拶で鈴木山首は「本日は待ちに待った法音寺三原支院新本堂落慶の喜びの日であります」「新本堂は、輝くばかりの美しい姿を私達の目の前に見せてくれている。御宝前も光り輝いており、まさに靈山浄土のよう」と檀信徒の声を代弁した。



さらに三徳布教の先師や先代主管者夫妻を偲びつつ、「現主管・森野智広上人ご夫妻を中心として、檀信徒の皆さんが異体同心となつて、三徳の実行、広宣流布に励まれ、新本堂が三原三徳の根本道場として、より一層輝きを増すことを期待している」と激励した。

これを受けて森野主管が謝辞。導師や参列者に感謝の言葉を述べるとともに、「三原支院が感謝に満ち、いたわりに満ち、そしてお互いに切磋琢磨して、中には、書写行、唱題行に励む人もいると思う。法音寺法華経三徳のみ教えをめざしていく人を一人でも多く輩出し、少しでもお家や周囲を極楽にできる人を精進して育ててまいりたい。それが先師に報いることではないかと思ひ定めている」と決意を披瀝した。

三原支院は県道75号線に面した皆実町2丁目に位置する。新本堂は平屋建てで、建築面積は960平方メートル（約290坪）。アーチ型の天井を持つ本堂のほか多目的ホールや厨房などを併設。駐車場も完備。毎月第2土曜日と第4月曜日が講話日となっている。

なお、法音寺は全国に40支院を有している。



顕修院日達上人の御祥月命日法要が執り行われます。  
法音寺本山では12月17日(日)、午後1時30分より  
講日に併せて法要が厳修されます。  
日達上人からご教化いただいた  
お言葉を思い起こしましょう。  
皆さまのご参詣をお待ちしております。

◆今月の山首上人さまご親修日程

郡上八幡支院	12月8日(金)	京都支院	12月9日(土)
西春支院	12月12日(火)	平賀支院	12月15日(金)
高槻支院	12月21日(木)	明川支院	12月23日(土)
亀岡布教所	12月24日(日)		

# 有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください。

支院名	今月の講話日など	住所	電話番号
大乘山泰明寺	5日・20日	名古屋市中村区名駅2-37-3	☎(052)581-20069
開基堂	10日	江南市寄木町天道18	☎(0587)53-5436
東京支院	3日・15日・23日	東京都練馬区谷原2-6-37	☎(03)3904-1251
山形布教所	10日	山形市長町2-4-6	☎(023)681-0770
静岡支院	2日・12日・23日	磐田市長崎4-7-13	☎(0538)32-6625
豊川支院	4日・20日	豊川市中野川町1-26-3	☎(0533)86-4704
安城支院	10日・18日・28日	安城市新田町小山31-25	☎(0566)76-2504
明川支院	11日・23日	豊田市明川町堂ノ脇1-2	☎(0566)72-7208
佐屋支院	4日・10日・24日	愛西市大井町浦田面296	☎(0567)32-1825
一宮支院	5日・15日・25日	一宮市大江1-7-4	☎(0586)72-7208
西春支院	2日・12日・22日	北名古屋市九之坪東ノ川20	☎(0568)22-5813
岐阜支院	4日・14日・24日	岐阜市切通7-15-22	☎(058)245-2939
笠松布教所	12日	岐阜県羽島郡笠松町八幡町23	☎(058)388-2740
大垣支院	1日・11日・21日	大垣市宝和町5	☎(0584)78-4854
関支院	3日・13日・23日	関市西福野町2-15-11	☎(0575)22-0776
平賀支院	5日・15日・25日	関市市平賀2-13-2	☎(0575)23-3771
郡上八幡支院	8日・22日	郡上市八幡町小野7-21-3	☎(0575)65-3933
四日市支院	3日・13日・22日	四日市市赤堀2-4-7	☎(059)352-3633
上野支院	1日・11日・21日	伊賀市上野向島町3475	☎(0595)21-0127

☎ご連絡は本山寺務局へ

京都支院	1日・9日・20日	京都市上京区北横町360	☎(075)231-3437
高槻支院	3日・21日	高槻市天神町1-9-2	☎(072)685-1003
大阪支院	10日・23日	大阪市此花区西九条3-4-41	☎(06)6465-5051
福井布教所	2日	あわら市春宮3-28-2	☎(0776)73-5234
和泉支院	3日・14日・22日	大阪府泉南郡田尻町嘉祥寺404	☎(0724)66-3112
神戸支院	9日・21日	神戸市兵庫区五宮19-17	☎(078)360-4884
淡路支院	5日・25日	南あわじ市神代国衙910	☎(0799)42-0175
岡山支院	3日・7日・23日	岡山市南区若葉町1-16	☎(086)262-0818
高知布教所	12日	高知市上町5-5-39	☎(088)823-1983
福山支院	1日・17日	福山市西町3-19-5	☎(084)921-3078
三原支院	9日・17日	三原市皆実2-9-22	☎(0848)62-5087
安芸津支院	2日・10日	東広島市安芸津町三津3765-3	☎(0846)45-4012
坂支院	3日	広島県安芸郡坂町坂東2-24-12	☎(082)885-1064
福岡支院	3日・15日・17日	福岡市早良区城西2-11-37	☎(092)821-7975
壱岐布教所	13日・23日	壱岐市石田町池田東触1112	☎(0920)44-5445
筑後布教所	10日・24日	筑後市大字西牟田5954-1	☎(0942)53-7273
天草布教所	1日	上天草市大矢野町維和1502-1	☎(0964)58-0742
田川支院	10日・24日	田川市春日町7-30	☎(0947)42-1819
名古屋地区	7日・17日・27日	名古屋市昭和区駒方町3-3	☎(052)831-7135
瀬戸布教所	9日・19日・25日	瀬戸市東本町2-20	☎(0561)85-6860
亀岡布教所	11日・24日	亀岡市篠町篠牧田73-1	☎(0771)25-7807

※開始時刻等については、それぞれにお問い合わせください。(掲載順不同)

# 御開山会

を以て佛滅度の後に  
力を現したる故に諸佛が能く是の  
受持の者を讚美す是の經を歡喜して  
於てすとも猶お盡くすこと能わし  
人の功徳は無邊にして窮まりあることな  
けん十方虚空の邊際を得べからざることな  
如し能く是の經を持たん者は則ち爲れ  
已に我を見亦多寶佛及び諸の分身菩薩を見  
又我今日教化せる諸の菩薩を見



平成30年  
御開山会

三徳開教百十年  
顯修院日達上人第七回忌

御報恩法要

平成30年に三徳開教百十年・顯修院日達上人第七回忌を迎えるにあたり、  
記念の天童音楽大法要を虔修いたします。  
当日は稚児行列やバザー等を実施し、本堂では過去の貴重な映像をご覧いただく等、  
種々の催しを行うことが予定されております。

期日…平成30年5月13日(日)

5月20日(日)

6月3日(日)

皆さまのご参詣を心よりお待ち申し上げます。

法音寺事務局

特別企画

# 聖の教え

(二十四)

## 懺悔の事

あるは罪なきは功德と今ぞ知り

やがてむくいの善き種ぞまく

宗玄大徳御詠

## ◆経典

◆一切の業障海は、皆妄想より生ず。若し懺悔せんと欲せば、端坐して實相を思え。衆罪は霜露の如し、慧日能く消除す。是の故に至心に、六情根を懺悔すべし。

佛説觀普賢菩薩行法經 四一八頁

## ◆御書

◆信心疎かにして、三途に墮して重苦を受けん時、悔ゆるとも益なかるべし。譬えば網にかか  
る鳥の高く飛ばざる事を悔ゆるが如くなるべし。

十王讚歎鈔 五九頁

◇ 螻蛄蚊蠅等の小蟲を殺せる者も、懺悔なければ必ず此の地獄に墮つべし。譬えば、鐵は鍼なれども水の上におけば沈まざることなきが如し。又懺悔すれども懺悔の後に重ねて罪を作れば、後の懺悔には此の罪消えがたし。譬えば、盜をして獄に入りぬるもの、しばらく經て後に御免を蒙りて獄を出づれども、又重ねて盜をして獄に入りぬれば、出でゆるされがたきが如し。

顯謗法鈔 四五五頁

◇ 針は水に沈み、雨は空に止まらず。蟻子を殺せる者は地獄に入り、死に屍を切れる者は惡道を免れず。何に況や人身を受けたる者を殺せる人をや。但し大石も海に浮ぶ船の力なり。大火を消す事水の用にあらずや。小罪なれども懺悔せざれば惡道を免れず。大逆なれども懺悔すれば罪消ゆ。

光日房御書 一三九二頁

◇ 病に二あり、一に輕病、二に重病。重病すら善き醫に値いて急に對治すれば命猶存す、何に況や輕病をや。業に二あり、一には定業、二には不定業。定業すら能く懺悔すれば必ず消滅す。何に況や不定業をや。

法華經に依りて定業を延ぶべき事 一七四七頁

## ◆御開山上人

仏説観普賢菩薩行法經の事

法華經と無量義經とこの観普賢經はあわせて法華の三部經と言わ

れていきます。天台大師が法華經をお弘めになるころ、この三つの經を一緒に読まれたというこ

とであります。

法華經は、一切の人がみな仏に成ることを教えられた一番尊いお經であります。人間は仏に

なる本性を持つていっていることも説かれてありますが、人間の心の中には迷いがあり、煩惱があり

まして、仏になる本性があっても、その本性を充分に發揮することができないのです。ここに

於て、心の迷いをなくすることが必要でありまして、その心の迷いをなくするために「懺悔」

ということが必要であります。自分の気がつかない間にいろいろな煩惱が大きくなってきてい

るのでありますから、たえず自分の心を振り返って間違ったところを直し、自分の足りない

ころを補ってゆくようにしなければなりません。その自らの足りないところを省みることを教

えたお經が、観普賢菩薩行法經であります。

御開山上人御遺稿集 八九頁

六根（六情根）

清淨の事

六根とは、

眼・

耳・

鼻・

舌・

身・

意の六つで、この六根を清淨にす

る修行をせねばならぬ、ということですが、修行といってもこれは、日常私たちにできることで

あります。



第一は、眼根を清浄にすることです。

今日までの悪い行ないの報いとして、物事の眞実がわからなくなった者は、大乘の教えをく  
りかえしくりかえし読んで、考えなければならぬのであります。

第二は、耳根を清浄にすることです。

間違つたことを聞いて、正しいことを聞けないようではお互いに和合の心持が欠け、互いに衝突しあつて自分の頼りになる者もいなくなり、人生に平和というものがなくなります。一切の迷いを離れて、尊い根本の理を考えると、天耳といって十方の声が思うとおり聞かれ、一切の障りを超越した耳となります。

第三は、鼻根を清浄にすることです。

いろいろな香りに執着して、間違つた感情を起こし易いのです。大乘の教えを読み、眞実の道理を考へることができるとなれば、迷いを生じて凡夫の生活にもどるといふことはなく、後生命まで非常に良いものになるのです。

第四は、舌根を清浄にすることです。

舌は煩いの因であります。妄語・悪口・両舌・綺語・誹謗などの因であります。大乘の教えを読んで心の乱れたところを調べ、一切の人々を幸福にしてやりたいという心がけで修行してゆけば、その罪業を償ふことができますのであります。

第五は、心根を清浄にすることです。

心の動きというものは、猿が樹の枝を飛び回るように、しばらくもどどまることがありません。大乘の教えを学び、仏の力、仏さまが教えをお説きになるときの態度などをよく考えて、自分は仏にならなければならぬのだ、という決心をすることが、自分をよくする道でありませぬ。

自分の心の煩惱をおさえて仏性を發揮させ、小さな自分の欲望を捨て、自分の本来の使命を全うするために努力せねばならないのであります。そうすれば心の進みようが正しく定まってくる。それには、仏さまの大乘の教えを繰り返し繰り返し学んで、自分の心を折伏しなければならぬのです。

第六は、身体を清浄にすることです。

身体はいろいろな働きをつかさどりますが、この身体の状態というものは、塵の風に随って転ずるようなもので、周囲の事情や刺激によってぐるぐる変わってゆくのであって、統一も方角も定まっていけない状態なのであります。「六賊中に遊戯して自在に罣礙なし」とありますが、見たり聞いたりすることがみな自分の妨げとなつて、その妨げが自分の身の中に自由自在に力を恣にして、迷いが勢力をもってしまふのであります。

御開山上人御遺稿集 九五頁

## ◆日達上人・懺悔のお話

**懺悔文** 『懺悔は治病の妙薬、開運の秘法なり。若し難病を平癒し、悪運を除かんと欲せば、

すべからく懺悔すべし』(法音寺刊・礼拝文)

懺悔とは、自分の犯した罪を恥じ、その罪を人に告白して許しを乞う、という意味であります。そしてもう一つには、人を責めない、という意味もあります。

懺悔をすると病気が治り、運が開けると言われています。病気になる原因の大半が、怒ったり、人を憎んだりする心遣いにあることは申すまでもありません。そして悪いことに、病気になるれば余計に心が狭くなり、さらに堪忍を破るといふ罪障を重ねます。こうしたことを繰り返して繰り返して、循環して行ないますからなかなか治りません。これは、病気に限ったことではありません。私共の日常を考えますとき、思うようにならないこと、苦しいこと、本当にいろいろなことがあります。そうした場に直面しますと、人間はなかなか、自分の罪障のせいとは思いません。こうなったのもあいつのせい。あのやろう、このやろう、と人を責め、憎み、そのことによつてさらに罪障を積み重ねてしまうのです。どこかでこの悪循環を断ち切らねばなりません。それが懺悔であります。

「懺悔文」には、とてもたくさん罪の本が記されていますが、中から、日常最も犯し易い罪業を考えてまいりましょう。

子となりて親を嘆かしめる 子どもの頃を振り返ってみて、みなさんどうでしょう。私自身も

思い出されますが、たしかに言われる通りであります。〃こうしなさい〃と言われてもしなかつたし、逆らってばかりいて随分親を困らせたのではないでしょうか。

翻って、親の立場から子どもを見てみましょう。子どもが親の言うことを聞くのは小さい内だけで、成長するにつれて理屈ばかり達者になり、なかなか言うことを聞きません。それをそのまま見ますと、子どもが悪い〃となりましょうが、因縁を考えますと、そうばかりも言っておられません。そうでしよう。今、自分の子どもが言うことを聞かないのは、自分が子どものとき親を困らせた、その罪が因果となって現在に現われているのです。ですからただ単に、子どもだけを責めるのは間違いということになります。すべてこのように考えてゆかなければならないのであります。

夫となりて妻を虐げ、妻となりて夫を尅す たとえば、自分の言うことを奥さんが全く聞か

かったとしましょう。普通に考えれば、女房が悪い〃となりますが、そうではありません。

過去世に自分が逆の立場にあって、相手に迷惑をかけたという因縁があったから今そうなっている〃と考えなければなりません。今世だけを考えると、〃どうしてこんな人と一緒になつたのか〃と思うこともありません。夫婦になるということは本当に不思議な因縁であります。そういう深い因縁に結ばれた二人が、お互いに勝手なことをして傷つけ合うのは、決して

偶然ぐうぜんの出来事できごとではありません。 お互たがいがそうなる因縁いんねんを過去世かこせに蒔まいて来たから今いまめでたく  
実みのり、結果けっかとなって現あらわれた。 というように考かんえてゆかなければならないのです。 相手あいてを憎にくみ、  
責せめるのではなく、自分じぶんの罪障ざいじょうを憎にくむ、つまり、懺悔ざんげをしてその罪つみを消滅しょうめつする努力どりよくをしてゆか  
なければなりません。

**姑しよとめとなりて嫁よめを憎にくむ** 最近さいきんは、お嫁よめさんがお姑しよとめさんに辛つらく当あたる場合ばあいもよく見受みうけられます。

お寺てらに来こられると、まことに面白おもしろいもので、別々べつべつに来てはお互たがいに悪口わるくちを言いって帰かえって行いかれ  
ます。 聞きいているだけでは何なんにもなりませんから、何なんとかうまくゆくようにしてあげなければ  
なりません。 しかし、本人ほんにんたちがその気きにならなければどうにもなりません。 この世界せかいは因縁いんねん  
の世界せかいでありますから、本人ほんにんたちがそうになっている因縁いんねんを悟さとり、何なんとか変かえてゆこうと努力どりよく  
しなければ解決かいけつしないのです。

すべての人間にんげん関係かんけいについて言いえることですが、相手あいてが悪い。 相手あいてが先に直なおすべきだ。 と思おもっ  
ている内うちは、決けつしてよくなりません。 まして、相手あいてが辛つらくあたるからこちらも。 というような  
ことを考かんえていては、悪わるい方に悪わるい方ほうにと進すすんでゆくだけで、ますます泥沼どろぬまにはまり込こんでし  
まいます。 こうした場合ばあい、まず自分じぶんの方ほうが先に変かえてゆかなければならないのです。 こちらが  
変かわれば必ず相手あいても変かわるというのが、因縁いんねんです。 辛つらくあたってくる人ひとに對たいしては、できなく  
いことではあります。 何なんとかして相手あいてを喜よろこばせようとしてゆくのです。 言葉ことばで、笑顔えがおで、

あるいは物質的な施しでも何でも、とにかく自分のできることで喜んで頂ける方法を考え、実行するので。相手がいくら意地の悪い人でも、自分が認められ、大切にされれば悪い気はしないでしょう。お嫁さんもお姑さんもいろいろなことを言いますが、つまるところ何を言いたいのかというところ、私を大切にしてほしいと言いたいのです。ただお互いに「我」が強いものですから、素直に言えないのです。その「我」が愚痴を言い、悪口を言い、態度を邪険にしているだけで、本心はほめられたい。大切にされたいということ以外にありません。誰もがそう思っているのですから、そうしてあげればいいわけです。気がついた方が先にしてあげるのがいいです。

「あいさつ」などいい例です。殊に近頃の子どもは、あいさつを知らないのではないかと思える程、いたしません。しかし一概に子どもばかりを責めるのは間違いです。はっきり言ってこれは、親が悪いのです。皆さんのご家庭はいかがでしょう。親同志、朝起きたときあいさつをするでしょうか。子どもに「おはよう」と言うでしょうか。朝、だまって起きて来て、だまってごはんを食べ、だまって家を出て行く家庭が多いのではないのでしょうか。そのような環境に育った子どもにあいさつなどできるわけがありません。そういう家の人に限って「なぜ親が子どもにあいさつをしなければならぬのだ。子どもから先にするのが当然じゃないか」と言われますが、ほっておかれた子どもが先にする筈がないでしょう。子どもにあいさつをさせるに

は、親同志がまず交わし合い、そして、子どもにもおはよう〴〵と声を掛けなければならぬのです。

そういう因縁を、常日頃から作っておくことが大切です。気がついた方が先に善い因縁を作るといことが、人間関係を円滑にする秘訣であります。

**兄弟・姉妹相争う** 兄弟・姉妹の争いは、殊に遺産相続の時によく見受けられます。その原因を一口に申しますと、財産に徳がないからです。正當な、と言いますか功德の結果としてできた財産なら、そのような問題は起きないでしょうが、無理に作った財産ですと、どうしたのか兄弟・姉妹の争いがよく起きるのです。また、徳のない財産はもらった側も、結果としてよくありません。そのお金のために身を誤った例は、この世の中いくらもあるでしょう。財産を子どもたちに残したいのであれば、せいぜい徳のついた財産にするよう、普段から修養に励むことが大切です。

**殺生をする** 殺生をしないために肉・魚類を食べないと言う宗教教団もありますが、しかし、野菜類、たとえば大根でも人参でも生命はある筈です。お米もそうです。切り刻んで赤い血のすることだけが殺生ではないのです。人間は、一日として殺生をしなくては生きてゆかれません。言い換えれば、一日生きること是一日分の殺生をしていることになるのです。そこで、どのように心がけて生きてゆくか、それが大切です。

先立せんだって小学生しょうがくせいの作文さくぶんを読みよました。その学校がっこうでは日頃ひごろから、生き物ものの命いのちを奪うばってはいけな  
いと教おしえていたのですが、フナの解剖かいぼうじっけん実験じっけんをしたことがありました。その時ときの作文さくぶんです。

『フナは、どんな場面ばめんになっても必死ひつしに生きようとしていた。そのフナをボクは殺ころしてしまっ  
た。フナさんごめんなさい。フナさんごめんなさい。これからボクは、フナさんの命いのちまで一いっし緒しょ  
に生いきますから、フナさん許ゆるしてください』

フナの命いのちと共に生いきるといふ、ここに人間にんげんとして生いきる責任せきにんがあるのです。米こめの命いのち、大根だいこんの  
命いのち、いろいろな生いき物ものの命いのちを取とらなければ生いきてゆかれないのなら、それらの命いのちを受け継つぎ、  
命いのちを奪うばっても生いきてゆく価値かちのある生いき方かたをしてゆく、ということことです。そうでなければ、命いのち  
を取とられた生いき物ものが成仏じやうぶつできませぬ。ひいては、私共わたくしどもの成仏じやうぶつもあり得えないのです。

妙法みょうほうの弘ひろまらせ給たまう妨さまたげをする 謗法ぼうぼうざいであります。あえて妙法みょうほうの悪口わるくちを言いわなくとも犯おかし易やす  
いことことですので、くれぐれも注意ちゆういが必要ひつようです。

あの人ひとは法音寺ほうおんじに行いってお話はなしを聞きいているというけど、人ひとの悪口わるくちをよく言いうし、すぐ怒おこるら  
などと言いわれたとしたら、法音寺ほうおんじの教おしえとは全まく違ちがうことをしているのです、かえってお話はなしを何なに  
も聞きかない人ひとより悪い結果わるいけつをもたらしませぬ。法音寺ほうおんじへお参まいりになる以上いじやう、周まわりの人ひとから、少すこ  
しは人柄ひとがらが良よくなったらと言いわれるようになって頂いたきたいのであります。



仏つせつかん ぶげん ぼさつ きょうほう ぼうつう  
「**仏説観普賢菩薩行法經**」の事

「一切の業障海は、皆妄想より生ず。若し懺悔せんと欲せば、端座して実相を思え。衆罪は霜露の如し、慧日よく消除す。是の故に至心に、六情根を懺悔すべし」

「妄想」とは、ゞありもしないことを現実のもののように見誤るゝことであります。取越苦勞などその好い例と言えるでしょう。

「実相を思う」とは、ゞこの世界の本当の姿をしっかり見るゝということです。

この世の中たしかに、氣に入らないこと、思うようにならないことがいっぱいあります。しかしそれはどこまでも一面だけの姿で、もう一方には必ず喜べることがあるのです。この世の中は因縁の世界、相對の世界でありますから、悪いことがあれば反面で必ずよいことがあるというのが、本当の姿であるのです。

考えてみれば、今、こうして生きておられることも本当にありがたいことであります。そのありがたい面に目を向けず、悪い面ばかりを顕微鏡でも覗くかのように探しますので、少しもありがたいことに氣が付きません。そうではなく、この世の中に今、どんな形であろうと生かされている自分を喜んでゆかなければなりません。そういう広い心になりますと、ゞありがたいなゝというゆとりができ、本当の智慧や慈悲が具わってきます。ちようど太陽の光が霜・露を溶かすように、罪障が消えてゆくのであります。

『仰ぎ願わくば、唱え奉る南無妙法蓮華經の慧日、靈光を放ちてわれ等無始の惑業を滅し、速かに病苦を救い、定業をして転じて現世安穩の大利益を授け給わんことを、至心に懺悔し、一心に祈りたてまつる』(懺悔文)

私共が困った。苦しいと言って悩んでいることは、絶対のものでも変えられないものでもありません。みな「妄想」で、それはすべて、自分の心が作り出したものです。心を落ち着けて「実相」を見てゆけば、罪障は木の葉の上にとまった露が太陽の光に当たって消えてゆくように消滅してゆくと言われるのです。

「実相」は、方便品の「諸法実相」であります。この世界は仏さまの世界であります。普通私共は、私共があって、世界があるというように別々に考えています。しかし諸法実相が言うのは、私とこの世界は一体であるということなのです。

一つの例を挙げてみましょう。私共は水を飲み、空気を吸います。そのおかげで生きていますが、これらはすべて自然のものです。それを体の中に取り入れて生命力を頂き、不要となったものは体外に排出します。その出されたものは再び自然に帰ってゆきます。ということは、私と自然は一体化していると考えられます。自分ということばかり考えているからいろいろ問題が起こるわけで、仏さまの世界に生かされている自分ということを考えてゆくと、世界

も、見る目も変わると思っています。

一年を終えるにあたって、一年を懺悔すると同時に、この仏さまの世界に生かして頂いて  
ありがたいという心を持ちたいものだと思います。いろいろ問題はあったとしても、今年一  
年過ぎさせて頂いたことは本当に不思議な、ありがたいことなのです。日本人の平均寿命を考  
えますと、自分はまだ生きられると言われるかも知れませんが、それはあくまでも国民全  
体の平均値であって、この私がいくつまで生きるかはわかりません。人間は、いつ死んでも不  
思議はないのです。それなのに、今年もこうして生かして頂いてありがたかったという感  
謝を、懺悔とともに持ちたいと思います。

手が痛くても足が丈夫ならけっこうなことです。耳が遠くても目が見えるのは、ありがたい  
ことです。人間はすぐ悪いところに気がつきませんが、いいところも必ずあるのですから、いい  
ところを探して喜んでゆくことです。ありがたいという気持ちがあれば、心の中にほこり  
が多少あってもきれいになります。このように一年を終えたいものだと思います。

# とくのはの記

## 大黒さまと鬼子母神さま

「おじいちゃん、何しているの？」

「今度、お寺で大黒・鬼子母尊神祭という行事があつてね、我が家の大黒さまと鬼子母神さまに里帰りしていただくと思つているんだよ」

「ふくん。大黒さまの袋に何か文字が書いてあるよ」

受持じゆじ法華ほっけ名者みまうしや福ふく不可ふ量かりよう

「これはね、法華経という教えを受け持つ者は、その福德が計り知ることのできない程多い」という意味なんだ」



「サンタクロースみたいに、大きな袋を持っていらっしやるけれど、中身はプレゼントなのかな…?」

「お上人さまによると、大黒さまは『福德のできる教え』を袋の中にいっぱい入れて、みんなが幸せになるように分かち与えてくださっている神さまだとおっしゃっていたよ」

「世の人々は、大黒さまの袋の中にある法華経という教えをいただいて、よいことをたくさん行なって幸福になり、また、世の中の人々へも自分の幸福になったことを教えて、世の中の人々が幸福になるように働いてください。そうすると知らぬ間に、大黒さまのように大福德の人となるのです」

(御開山上人述)

「大黒さまは日々、家族の幸せのために働いてくださっているんだよ」



「家族が仲良しなのは大黒さまのお陰なんだね」

「もう一つの神さまは…?」

「鬼子母神さまは出産と育児の神さまなんだよ。初めは人の幼児を食べる鬼女だったのだが、釈尊に五百人目の一番末の子を神通力で隠されたことで、子を奪われた親の気持ちに目覚め、それ以降は仏さまに帰依して、子どもを守る善神となったと言われているんだ」

是の十羅刹女、鬼子母並びに其の子、及び眷属と俱に仏所に詣で、同声に仏に曰して言さく、世尊、我等亦法華経を誦誦し、受持せん者を擁護して、其の衰患を除かんと欲す。

(妙法蓮華経陀羅尼品第二十六)

世尊よ、われらもまたこの法華経を口に読み、身にたも



ち、これを世にひろむる者を擁護して力をそえ、種々のさわりのないようにしてやりたいと思います」

「それにしても恐ろしい顔をしているね」

「子どものため」と言いながら、自分のことばかり考えている親を睨みつけているのだそうだ。『我が三毒、貪・瞋・痴を反省し、慈悲・至誠・堪忍の三徳を実行することで、怒りの鬼子母神のお顔を、柔和な優しいお姿にしてください』とお上人さまがおっしゃっていたよ」

家族を幸せに導いてくださる大黒さまと鬼子母神さまがお寺に里帰りし、香浴していただくのが大黒・鬼子母尊神祭です。その都度、お互いに日々の行いを反省し、ご守護いただけるように精進いたしましょう。



# 読者の声

## 罪障のありがたさ

永見喜美子（静岡支院）

私の家では、私が生まれる前から親戚の伯父を中心に、祖父母、両親が熱心に法音寺の信仰をしておりました。物心つくころには、自然にお経を耳にし、仏壇に手を合わせるのが日常でした。毎朝、祖父はお経を唱えていました。その姿を見ながら横に座っていました。戴き物があれば、必ず「仏さまにお供えしてね」と言われ、仏壇に直行していました。

ある朝、お経をあげていた祖父が「喜美子もお経覚えるか」と聞くのでうなづく、『運想』を覚えてくれました。そして「となえたてまつる」と何回か読んでいくうちに、覚えてしまったようです。祖父がお経を唱える時、覚えた所を一緒に唱えることができ、とてもうれしかったことを覚えていません。

その後、母の言うことを聞かなかったり、父にわがままを言ったりすると、決まってよくお腹が痛くなったり、転んで怪我をすることがありました。今思い返すと、必ずと言っていいほど、怒っていました。すると祖母から「そんなに怒ると良くないよ」と言われ、また「すぐ、体に出るといことは、仏さまが『ダメだよ』と教えてくださっているのよ。徳があるということかもね」と言われました。その時は、意味がよくわかりませんでした。しかしその後、罪障を出していただいていたんだ。



祖父母や両親が信仰をしていなかったら、わからないことだったのだ」と思いました。

大人になってからは腰痛や膝の痛みに悩まされていますが、幼稚園勤務という「職業病」だと勝手に決めつけていました。しかし、これもよく考えると、亡き父に対して、感謝する気持ちや欠け、反抗したことによる罪障ではないかと思えます。私は、若い頃から、父に反発ばかりしていましたが、それでも父は、怒ることはありませんでした。それがまた私の怒りを募らせる原因となりました。やはり怒ったことで、さまざまな罪障が出ました。整形や整体など色々な所へ通いましたが、腰や膝も症状は一進一退です。堪忍を破ることはいけない」とつくづく思いました。

今ようやく、心の奥底にあった父のことを思い出し、しっかりと反省しなくては、と思えるようになってきました。あの時もっと優しい言葉をかけてあげればよかった。もっと喜ぶことをしてあげればよかった」と悔やまれます。こう思えるようになったのも、罪障を通じて、常に法から離れずにいなさい。毎日が修行と思いなさい」と諸天から言われているお陰です。

これからは、法音寺で教えていただいているように、先祖供養と父の追善供養、そして私の罪障消滅や写経をさせていただき、人のためになることを考え、精進していきたいと思えます。

ひとよ世に生まれいでにしことわりを

知るや知らずや悟れ正しく

《御開山上人御詠》



## 御守・御札のご紹介

御札等の祀り方は、御札の種類により異なりますので、お尋ねください。

古い御札等は、本山、又は支院・布教所にてお預かりし、お焚き上げ供養をいたします。



- |         |           |       |           |         |
|---------|-----------|-------|-----------|---------|
| ① 道中安全守 | ② 安産守     | ③ 合格守 | ④ 當病緩和守   | ⑤ 當病平癒守 |
| ⑥ 方除守   | ⑦ 病氣平癒しき守 | ⑧ 盗難除 | ⑨ 災難除守    | ⑩ 守護守   |
| ⑪ 鬼門除守  | ⑫ 門札      | ⑬ 棟札  | ⑭ 祈禱修法    | ⑮ 黒札    |
|         |           |       | ⑯ 所願圓滿大黒札 | ⑰ 海上守   |

# 福祉の ひろば

## 二二二子育てく保育の現場からく⑦

### 〔5歳児の子育て〕

子どもは一日一日の経験を積み重ねて成長し、5歳にもなると、大人がやれるような基本的な運動はほとんどできるようになります。手先もますます器用になってきて、教えれば、蝶々結びもできるようになってきます。体が発達して、思いつき走り、ボール遊びをしたり、身体を使って色々なことをやりたくなる時期ですが、最近はどうどん遊び場も減り、気持ちと体力を持てあまし、余ったもやもやは、家の中でゲームをして解消することが多いように思います。

休みの日の行楽といえば、テーマパークに出かけるのも楽しいかもしれませんが、のびのびと走り回る公園や自然の中で思いつき遊ぶことで、子ども

もは自然の大切さを学びながら、体を動かし、もやもやも解消し、代わりに達成感や充実感を得ることができるようでしょう。人間の暮らしは自然の中で培われたものですから、自然とふれる機会をたくさん作っていた方がいいと思います。

最近、地域環境の変化から子どもだけで遊びに出かける機会は少なくなり、どこに行くのも親と一緒にということが多いと思います。しかし、小学校へ入学すれば、大人の手を離れ、子どもだけで通学しなくてはなりません。園児を連れて散歩に出かけ、歩道橋を渡ろうとした際、経験をすることがない子どもが、怖くて渡れず、目的地を変更して帰園したことがあります。その後、何度か歩道橋を渡る練習をして、ようやく本来の目的地に出かけることができたのですが、車での移動が多くなり、歩く経

験が少なくなっているのだ」と感じました。歩くことが少ないと、交通ルールを守ったり、車の危険を予測したりする機会も少なくなるということです。家の周辺の2〜3キロ位や学校までの道のりは、子ども達自身で移動することが多いので、機会を見つけては、車を使わずに子どもと一緒に歩いて危険な場所を教え、車道を横断する際は、横断歩道を渡ること等を繰り返し教えることが、子どもを交通事故から守ることにつながります。また、自転車も上手に乗れるようになると思いますが、必ずヘルメットを着用してください。

社会性もどんどん育つ頃ですので、家族や友達の中で、必要とされている、自分が役に立っていると感じる経験を得て、自分分は社会の中で必要とされている」という、自尊心が育っていきます。それは、これから子ども達が就学し、大人へと成長していく中で経験するだろう、悲しい出来事や辛い体験も、乗り越える力へとつながっていきます。ご家庭の中で、お手伝いや簡単な役割を作って、「助かった」「いつもありがとう、あなたのお陰ね」等の声をか

けて、自分を誇らしいと思える機会を作っておけるとよいでしょう。

そして、社会にはさまざまなルールがあり、善悪の判断を教えることも大切です。最近はお金で払いやインターネットショッピングなど便利に買い物ができる時代になり、実際に親がお金を使う様子を子どもが見ることも減りました。そのためお店から悪気なく商品を持ち帰るといった事例もあるようです。社会性の育ちや生活に必要な力は社会環境の変化に伴い、大人が伝えなければ子どもは知らないということもありますので、しっかりと教えてあげてください。

子どもはこれからますます成長し、いずれは家族のもとを離れ自立し、社会を担っていく大切な存在です。それは、私達が暮らすこれからの未来を作っていくことだと思えます。子どもを取り巻く大人達が笑顔と優しさを忘れず、産まれてきてくれた大切な「命」に「ありがとう」の気持ちを持って、子どもの育ちを見守っていただきたいと思えます。

(T・T)

# 福祉に 生きる



社会福祉法人 昭徳会

障がい者  
支援施設

## 小原 察の 実践

『日本の福祉を築いたお坊さん』に学ぶ。

鈴木修学先生が築き上げた福祉の

新たな未来を切り開くために…

### 修学先生の「ギブアンドギブ」の精神

小原 察 事務員 颯田 優季

『日本の福祉を築いたお坊さん』を読むことで、今まであまり深く考えてこなかったことを考えさせられ、私の母校である日本福祉大学について改めて学ぶことができた。日本福祉大学は鈴木修学先生によって創立された。その背景には「社会福祉」という言葉が広くいきわたる前から、ハンセン病の患者さんや罪を犯した少年、虐待を受けた子ども、戦災孤児、知的障がい者の介護、養護、教育などに取組んできた修学先生の熱意がある。「鈴木修学氏の業績は、世間一般に広く知られたものとは言えません」（P4より引用）とあるが、日本の社会福祉の原点のように感じた。

杉山辰子先生は亡くなる直前に「明日死んでも後悔はない、というまで徳を積みなさい。死んで持つていけるのは徳だけです。死んでしまったら、家も土地もあの世に持つ

ていくことはできません。お金や名誉に執着してはなりません。煩惱の種を植えることに勤しんではなりません。この世に生を受けたからには、功德を積むこと、不幸な人々を助け、人々を幸せに導くことに命を捧げなさい」（P45より引用）と信者さんを教化した。今の私は、明日死んでしまつたら後悔しか残らない。昭徳会で働かせていただいている以上、ここで何らかの徳を高めていきたい。「功德を積むこと、不幸な人々を助け、人々を幸せに導くことに命を捧げなさい」という教えを日々、実践できる環境にいる。そこで私は、一日一日を改め、「幸せの種」をまき、幸せを増やすとともに、人間味あふれる人になれるよう心掛けていきたいと考えている。

私の好きな言葉に「Give & Give（ギブアンドギブ）」という言葉がある。一般的には「Give & Take（ギブアンドテイク）」という言葉の方が知られていると思う。「ギブアンドテイク」とは、「相手に利益を与え、自分も相手から利益を得ること」（コトバンクより引用）と定義されており、与えたものに対して少なからず見返りを求めている姿勢である。「ギブアンドテイク」は、率先して人に与える生き方をしようとするが、見返りを期待しているため、見返りを返してこない人には与えることをやめ、また新しく見返りをくれそうな人を探そうとしてしまう。つまり最初は人のために行動していたはずが、いつの間にか自分のた

めの行動になってしまふ。このような姿勢は杉山先生や修学先生にはまったく見られなかった。もしそのような姿勢があつたとしたら、決して日本福祉大学や昭徳会が創設されることはなかつたのではないかと思う。私はこの本を読み、修学先生は「ギブアンドギブ」の理想のモデルであると考えた。自分の身を削り、「ギブアンドギブ」、与えて、与えて、与えることを続けたからこそ、周囲の多くの人に助けられ、結果としてたくさんの笑顔を生み出すことができたのではないだろうか。決して見返りを求めず、「ギブアンドギブ」を続けた者にも、人を助けるといふ本当の幸せが巡ってくるのだ、ということをおぼることができた。

## 福祉施設従事者としての功德を積みます

小原寮 生活支援員 橋本 公美子

『日本の福祉を築いたお坊さん』を読んで一番初めに印象に残ったことは、功德を積むことでした。私自身も昔から両親に功德を積むことなどについて、さまざまなことを教えてもらってきました。功德は一人ひとり、それぞれに意味があると思いますが、この修学先生も自身でいろいろと考えるながら、自身なりの功德を積み、この福祉の道を築くことができたのではないかと思いました。私も私なりに利用者の方、自分の周囲の方、またこれから関わっていく方

々の協力者となれるような啓発的な行動に取り組んでいきたいです。修学先生のような大きなことはできないだろうと思いますが、小さなことを少しずつでも行おうと思います。

昭徳会の「基本方針」は、初めて聞いた時からとても印象に残っています。「この人はこういう障がいだから」と支援するのではなく、その障がいを一つの個性・性格として考え、一人ひとりの個別支援を意識していける方針であったからです。これから一層、意識していこうと思います。

障がいのある方は、社会生活の中で時折、差別のある視線を向けられることがあります。それを私達の支援によって完全にすることは不可能です。しかしその差別の視線を向ける人達に、少しでもこちらの教えや支援、障がいについての特性などを広めていくことはでき、それによって少しでも差別的な視線を減らすことはできると思います。それができるのも、この福祉施設従事者である私達の「功德」だと考えました。

利用者にとって、そして自分達にとっても「幸福」となるような支援をしていけるよう、これからも功德を積んでいきたいです。

## 自分ができる精一杯のことをやりきります

小原寮 生活支援員 吉村 莉奈

この本に登場される鈴木修学先生の存在は、第一回初任者研修で知りました。初代理事長である修学先生の生涯を研修の初めに学びました。お話を聞いて、すばらしい方だと感じたのですが、この本を読んで、どのような生き方をされたのか、どのような人であったのかをさらに詳しく知ることができました。

修学先生は、昭徳会の初代理事長であるとともに、日本福祉大学の創立者であり、世間一般に社会福祉の考えがいきわたる前から、社会福祉教育の先駆者として尽力されていたことが書かれていました。日本福祉大学の歴史はとも長いのだということがわかりました。その第一歩は23歳という若さで成功されていた仕事を辞め、杉山先生のもとで仏教化救済会に入会されたことに始まり、私とほとんど変わらない年齢であるのに、考え方はさまざまだと思います。また、修学先生は強い信念を持たれていたのだということが感じられました。

ハンセン病患者の救済を行われていたことが書かれている部分に、その当時のハンセン病患者に対する世間の人々の考え方についても記載がありました。当時はまだ、ハンセン病が解明されていなかったため、不治の病と恐れられ

ており、ひどい偏見や差別にさらされる患者さん達にとつて、辛く、生きにくい世の中だったのだと思います。家族までもが見放し、強制的に隔離されてしまうことが、とても悲しく感じました。同じ人間であり、病気になっても、その人であることには変わりはないのに、信じていた人に裏切られる苦しみや悔しさがあつたのではないかと思います。

現在はハンセン病について説明されているので、客観的に考えることができるのですが、まだハンセン病が解明されていない時に、修学先生のように私自身がハンセン病の患者さん達の身の回りのお世話ができるのか」と言われたら、〃感染したら怖い〃と考えてしまうだろうと思います。

修学先生の行いを知ったことで、悩み・苦しみを抱える人達を幸せにすることは、自分自身も大きな幸せを得ることにつながるのだと感じられました。世の中にはさまざまな人がいるため、ハンセン病に関して嫌な顔をする人もいるけれど、訴え続けることで理解してくれる人々もいるのだということがわかりました。また、どんなに困難な状況であっても、「自分ができる精一杯のことをやりきる」という言葉が度々出てきました。〃私には無理だな〃と思うと、あきらめてしまうことがあるのですが、自分ができる精一杯をやりきることで達成感も得られ、失敗しても失敗

から得られるものがあると感じたので、あきらめずに精一杯やりきっていきたいです。今回この本を読んで学んだことを、今後活かしていけるよう努めていきたいです。

### 修学先生のようにその人に合った支援をしたい

小原寮 生活支援員 水野 葉月

不思議なご婦人に「幸せになりたければ、幸せの種をまくことが必要です」と言われた鈴木修学先生。この意味が初めは何のことかわからなかったが、これは「法華経の教えを實行すること」であり、病気で苦しむ子や生活に困っている不幸な人々を助け、幸せに導く方法の教えでもあることが、本を読み進めるにつれわかってきた。私も修学先生のように困った人を助けたり、みんなが幸せになつてもらえるような仕事をしていきたいと思った。

ハンセン病にかかつてしまった患者さんに対し、修学先生が法華経の教えを守り、療養所を一からきれいにしている姿は誇らしいと思った。発病しただけで強制的に隔離されたり、生きている間に母親などの大切な人に会えなかつたりと、患者さんの悲しみの深さを思うと同時に、修学先生も自分の大切な物を売るなどして生計を立てており、その信念にも心を動かされる。また、修学先生は罪を犯した少年達とともに苦労を重ねて農業に打ち込み、最終的には



立派な田畑を作ったが、その作業は田んぼに水を引くために大きな穴を掘るところから。多くを機械がやってくれる今の世の中ではそのような作業は考えられず、苦勞している姿が想像できなかったが、修学先生は少年達を誰一人として怒らず、かなりの重労働をもとにこなし、収穫した農作物を貧しい人々に無料で配布して喜んでくれた。できたものを人々に与えて感謝されることで、少年達に「今まで自分達がやってきたことは正しかった」と学ばせてくれたのだと思う。

戦災孤児の引き取りでは、孤児をトラックに乗せるのに苦勞したとある。母親や父親、兄弟姉妹を亡くした子に乗せるには、信頼関係を結ぶところから始めなければならぬ。トラックに乗せて施設に行っても隙があれば逃げ、何日間の衣類を持って出かけて普通に帰ってきた子にも、怒らずに愛情だけを与えていた修学先生は心がものすごく広い方であり、この方が昭徳会の生みの親であることが誇らしいと思った。「仏教は、悪をふせぎ、善をすすめて、日常生活を楽しく、将来に幸せをもたらし、人々に安心を与える人類の智慧であります」という言葉が私の心に刺さり、とても深くしみいった。

知的障がい児施設・八事少年寮で、修学先生は子ども達を温かい雰囲気の中で安心して、劣等感から解放するように指導し、その結果、子ども達の生活意欲を伸ばしてい

った。それを参考に私も勉強をもっとして、利用者一人ひとりの個性を見つけ、その人にあった支援ができるようにしていきたい。

## 昭徳会職員として「幸せの種」をまきます

小原寮 生活支援員 袴田 能士

鈴木修学先生は、杉山辰子先生との出会い、生の松原のハンセン病患者の介護と施設運営の苦闘、臥竜山の非行少年達への農業指導、藤森寮の孤児達の養育、特高警察からの弾圧、駒方寮での戦災孤児の受け入れ、名古屋養育院の運営継承、日蓮宗での得度と教団の再建、八事少年寮での知的障がい児との出会い、身延山の大荒行、中部社会事業短期大学、そして日本福祉大学の開学といった日本の福祉を築き、人々の本当の幸せを願い続けたお坊さんでした。

この歴史の中で、要となるのは「杉山辰子先生との出会い」でした。修学先生が「人生の意味」を考えるようになったとき、「あなたは自分の正体がわかっていますか。あなたでなければできない大切な役割があります。その役割に気がつくこと、幸せになれる。幸せになりたければ幸せの種をまくことが必要です。幸せの種とは法華経の教えを実行することです」という教え、そして「法華経の教えとは、親のない子、病気で苦しむ子、生活に困っている不幸な人

々を助け、幸せに導く方法を説く教えです。不幸な人々の手助けをすることこそ、幸せの種まきにほかなりません。あなたが求める幸せは、法華経の教えを実行し、人々を幸せにすることによってのみ得ることができるといいます。修学上人の原動力となる教えを受ける出会いでした。

この本を読んで自分の人生を振り返ってみた時、自分にとっては、バスケットボールを教えていただいた先生との出会いが重要な出会いだったのだな」と思いました。厳しさの中に優しさのある先生でした。私はバスケットボールを通じて、自分の技術の成長がチームの成長につながり、その結果バスケットボールの楽しさが生まれることを知りましたが、先生からは技術の成長の前に、人間（自分自身）が変わらなければそれは生まれえないことを教えていただきました。

修学先生の築かれた歴史の上に、現在の昭徳会の職員行動指針があります。対人援助、思いやり、素直さ、共感、仕事への姿勢、自己研鑽、地域貢献、健康管理、問題解決、連携チームワーク、感謝の十か条は人間（自分自身）が変わらなければ楽しさは生まれえないということと同じであることがわかり、自分の人生を見つめ直すきっかけになりました。

## 『日本の福祉を築いたお坊さん』 日本福祉大学を創った鈴木修学上人の物語

星野貞一郎著・中央法規出版・新書版・168頁・800円税別 本書の著者印税のすべては「あしなが育英会」に寄付されています。

した。

修学先生が杉山辰子先生と出会い、社会事業・災害援助・貧民救済・ハンセン病患者の救済など、弱い立場にある人々の真の幸福を願って尽力されたことに比べれば、私の人生を重ねるのは大変失礼かもしれません。「幸せの種まき」を進める実行精神こそ、鈴木修学先生が築かれた日本の福祉であり、修学先生の福祉活動の歩みを知ったことは、昭徳会職員としての成長のきっかけとなったことは間違いないありません。

### 障がい者支援施設 小原寮

●愛知県豊田市沢田町座内22

●入所定員140名 ●職員 正職員50名、パート職員26名

●事務員 施設における人事書類の作成・文書管理、給与・会計関係処理等の業務を担当します。また、施設運営に関するさまざまな情報を収集し施設内職員の業務をサポートします。

●生活支援員 入所者の行動障害への対応や身の回りの介護、健康・衛生管理、作業等の活動支援、利用者個別の支援計画や年間行事の企画立案等を担当します。特に資格は必要としません。

※本稿は平成29年7月にいただきました。（掲載順不同）

## 障がい者支援施設 泰山寮を全室個室に



写真提供・昭徳会

障がい者支援施設 泰山寮  
～新しい施設に笑顔と歓声～

10月13日、みよし市副市長をはじめとするご来賓の方々をお迎えし、障がい者支援施設「泰山寮」の竣工開所式が執り行われました。鈴木正修理事長（法音寺山首上人）は「ごあいさつで、当施設の開所の経緯からその歴史を振り返られ、加えて、「利用者の居室の全個室化を図ると同時に木の温かみ、木の香り、安心感や温もりのある住環境を提供することができましたことを心から喜びたいと思います」と述べられました。

竣工開所式の翌日から、19日の利用者さん達の引っ越しに向けた本格的な準備が始まりました。環境の変化が苦手な利用者さん達に新しい建物の見学、そして自分の部屋の確認、食事の場所の確認、風呂場の確認等を随時行い、新しい環境、新しい生活に対応できるよう支援し、納得してもらい

ました。

さまざまな準備を経た19日、引っ越しの当日です。新しい自分の部屋に「自分の部屋」と言って喜んでベッドの上に座る利用者さん。どこに行ってもいいのか戸惑う利用者さん。施設の広さに慣れず、施設の中で迷子になる利用者さん。新しい食堂での夕食を終えると、旧建物の部屋に勝手に戻り、今までと同じようにベッドの中に入り、暗闇の中でテレビを見て職員を困らせたNさん。引っ越しの最中に洗濯かごが紛失して、旧建物で大騒ぎをしていたSさん。私物を運びきれずに何度も旧建物に荷物の確認に行っていたKさん。そんな利用者さんも今ではすっかり新しい生活に慣れ、木の温もりのある個別化された新しい生活を満喫しています。新しい生活が始まり一週間が過

ぎましたが、いまだ旧建物に戻ってしまう利用者さんもいます。利用者さん達の環境の変化に慣れることのむずかしさ、こだわりの強さを痛感させられる一コマです。

泰山寮には、それぞれがさまざまな特徴を持った（一人ひとり異なる文化を持った）50名の利用者さん達が生活しています。改築された新しい建物は、一人ひとりの文化を尊重し、利用者さん達の行動障害の軽減に配慮するために、個別化を一層進めた建物です。旧建物での生活習慣、行動習慣をリセットし、「泰山寮で生活することができて良かった」と、誰もが実感することのできる施設作りをめざしていきます。

「人が寄り添い、心が通う、しあわせ空間」これが泰山寮です。

障がい者支援施設 泰山寮 施設長 柴田弘二

# 看護・介護の現場と産業疲労研究者との対話

～日本福祉大学・産業疲労研究を現場に活かす～

2017年10月15日(日)に日本福祉大学名古屋キャンパスにおいて、『看護と介護の現場と産業疲労研究者との対話～産業疲労研究を現場に活かす～』をテーマに、研究会(主催:日本産業衛生学会・産業疲労研究)が開催されました。

看護や介護の現場では、労働環境の厳しさにより、人材不足が問題になっています。とりわけ介護現場での問題は一層深刻です。その解決のためにも、働きやすい環境づくりや、働く側の満足度を高めていく観点から、看護職や介護職・福祉職の「産業疲労」について、広く問題を共有し、その解決策を研究し、現場に活かしていくことは重要だと考えています。

20年前、看護師の労働は、3K(「きつい」「汚い」「危険」「危険な労働」)、5Kに留まらず8K(「きつい」「汚い」「危険」「給料が安い」「休暇が少ない」「カッコ悪い」など)とも言われていました。それから20年の歳月をかけ、看護学教育・研究と現場は、学問としての看護学の確立・研究活動の推進に取り組み、看護専門職団体との相乗効果で、看護系大学が急増。社会的地位向上、人材確保・給与面の改善などが図られ、発展して



写真提供・日本福祉大学

きました。しかし、医療現場における「産業疲労」など産業保健に関する研究は、まだまだ発展途上の段階です。介護現場は、言うまでもありません。

国内の産業保健に関する最大の学会・日本産業衛生学会に属する産業疲労研究会は、1951年に発足。『産業労働に関する疲労の問題』をどのようにとらえ、対策を打ち立てていくべきかを、産業保健・人間工学・心理学・看護学分野などの大学や研究所の研究者だけでなく、実際に職場でこのような問題に直面している産業医、産業保健師や衛生管理者なども参加し、研究を重ねています。

当日は、看護と介護の現場から現場報告をいただきました。介護の現場からは、昭徳会・特別養護老人ホーム小原安立グループプリーダの則竹宏亮氏（認知症介護指導者、介護福祉士・介護支援専門員）に『福祉現場の労働を取り巻く疲労の現状と課題』をテーマに、お話をいただきました。全国の福祉現場のストレスとして、①賃金の低さ、②人材不足、③社会的評価の低さ、④身体的・精神的労働負担があることを、現状を踏まえてお話しいただきました。疲労からくる虐待については、個人の責任ではなく、

組織として考えていく予防の必要性を伝えていただきました。

研究者側からは、『ヒューマンサービス労働者の疲労対策』というタイトルで、埤田和文先生（滋賀医科大学医学部）にご報告いただきました。医療、福祉、教育職場などのヒューマンサービス労働の特徴、福祉職の蓄積疲労徴候調査の経年的調査結果を示し、ヒューマンサービス労働者の健康は、①提供される労働の質、量の保障につながる。②政治が決める労働条件に規定される。③健康問題解決には国民との協働した取り組みが不可欠である。そのため、ヒューマンサービス労働者が、歯を食いしばって頑張つて働くだけでは展望はなく、産業保健の取り組みの必要性について、お話をいただきました。これからも、ふくしの総合大学の看護学部にも所属する教員として、看護の現場だけでなく、社会福祉人の現場にも視野を広げ、介護職・福祉職も含むヒューマンサービス労働の産業疲労研究を探索していきたいと考えております。

日本福祉大学看護学部 教授 水谷聖子

幸せの種まき 一人が一人を

家庭を明るくする秘訣は、  
相手をいたわり、慰めて

相手に喜びを与えることです

人生の最大の幸福は「家庭が平和である」  
ことです。

大乗山 法音寺

## 編集後記

今月は、三原支院新本堂落慶の記事を特集させていただきます。

落慶法要の翌日、山首上人さまから「読んでみませんか？」と小冊子を手渡されました。その小冊子は、三原支院開堂40周年と常久院日公上人（森野智岳上人）三回忌に発刊された記念誌でした。

その巻頭は、若き山首上人（当時副山首上人）さまと森野智岳上人・妙安法尼の対談から始まります。智岳上人の入信のきっかけから三原布教所ができるまでの歩みや、折々の教化が克明に記されており、三原の地に「法の種」がまかれた、言わば「原点」を見るようでした。

御開山上人が三原に初めて赴かれたのは、昭和30年3月30日。以下、智岳上人述。

「：三原の夜景が全部見えたんです。三原の人がみんな（法華経の教えを）聞いてくださったのなら、さぞかし三原は発展して、みんな幸せになれるのになあ、と御前さまに申し上げたんです。そうしたら『そうだなあ、そんなに慌てなくてもいいよ。上に上がるのも、ジョンといっぺんに飛び上がったら怪我するけど、一段一段上がるのは楽だよ。完全に上がることができるからね。一段一段上がりなさい』とおっしゃっていたんだんです」

お二人の声が聞こえてくるような気がします。

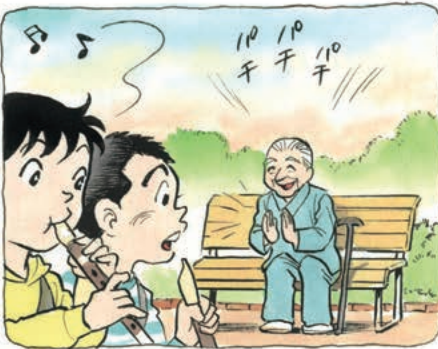
ある頁で手が止まりました。「あっ、あの帽子：」。竣工した新本堂で何度か見た昔の国鉄職員の帽子。智岳上人は55歳で退職するまで、国鉄の機関士だったのですね。智岳上人と妙安法尼の魂は、今も支院に留まり、これからも三原の人達を見守っていかれるのだろうと思います。

# おじいさんの記憶きおく

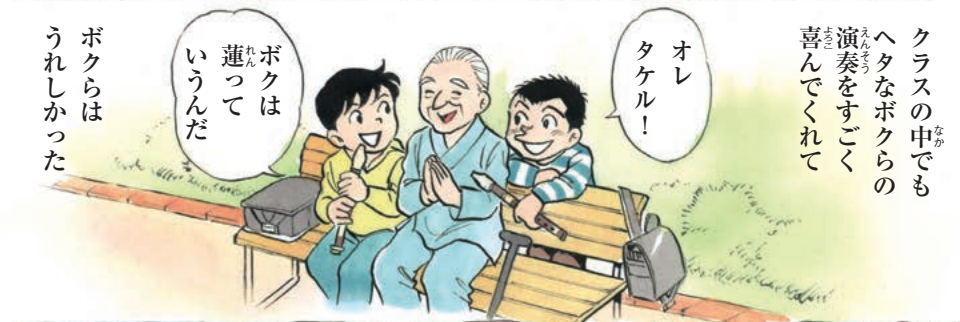
竹中 淳



ボクらが  
そのおじいさんに  
会ったのは  
数カ月前だった









さあて  
こっちの方  
だったような…

なんか目印に  
なるような  
店とか思い  
出せない？



おじいさん  
勝手に  
行っちゃった  
よ



ずいぶん  
遠くまで  
来ちゃったな

なあ 交番へ  
行った方が  
よくない？



みたいだね  
良かったあ

あ！  
家の人  
かな？



お父さん！  
どこ行ってた  
んだよ！  
心配してたん  
だよ！

だまって  
出て行っちゃ  
だめだろ！



いいから  
早く家に  
入って！

…



どちらさんって  
ボクだよ  
息子の  
タカシだよ



警察に  
捜索願いまで  
出して探して  
たんだよ！

どちらさん  
かの？





学校でおぼえた  
曲をよく聴かせて  
あげた  
「少年の頃」が  
おじいちゃん  
お気に入りみたい

大喜びして  
くれた  
そんな  
おじいちゃんが



どんどん  
私達家族のことや  
楽しかった  
思い出なんかも

みくんな  
忘れちゃうん  
だわ!

でも  
あの時…



ユカちゃん  
おじいさん  
どうしてる?



おじいさん あんなに  
喜んでくれたよな…



おまえ  
ケーキ食べたい  
だけだろ?  
そんなんじや  
ないよ!



地域ふれあい  
クリスマス会も  
近いわよ  
しつかり  
練習しましょうね

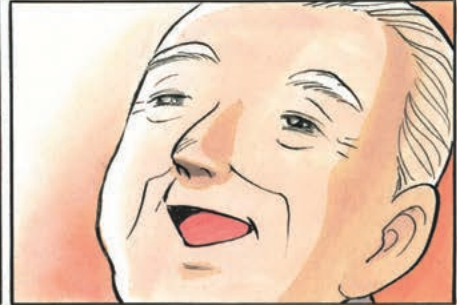
おとしよりも  
楽しみにして  
らっしゃるからね

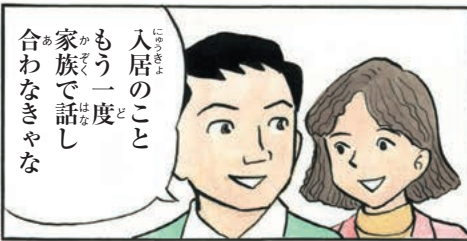
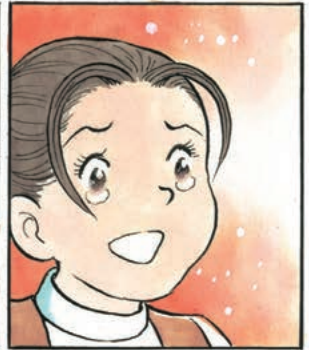


老人福祉施設  
「ふれあいの里」

はい  
いつでも  
けっこうですよ  
お父さま本人も  
いっしょに見学に  
いらっしゃってください







おしまい

# 書籍のご紹介

法音寺を  
知りたい方へ



戦後、法音寺を開山した鈴木修学上人は、仏教の教えを漫画で伝えようと多くの仏教漫画を作りました。当時の仏教界では革命的な取り組みでした。現在、全国の日蓮宗寺院で法音寺の仏教漫画が販売されています。

■まんが

『法音寺物語上・中・下』

法音寺広報委員会 企画

中央法規出版刊

B5版 平均九六頁総カラゝ

定価各巻一、〇〇〇円(税別)

法音寺の教えを  
学びたい方へ



現代生活の指針

鈴木修学著

四六判/三四五頁

定価八〇〇円(税込)



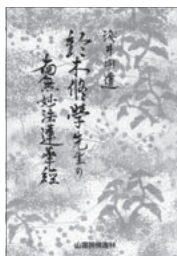
続現代生活の指針

鈴木修学著

四六判/三五二頁

定価八〇〇円(税込)

仏教を  
学びたい方へ



鈴木修学先生の  
南無妙法蓮華経

浅井圓道著

山喜房佛書林刊

四六判/二百二頁

定価一、八一四円(税込)



妙法蓮華経略義

鈴木修学著

青山書院刊

A5版/八六三頁

定価六、〇〇〇円(税込)

福祉を  
学びたい方へ



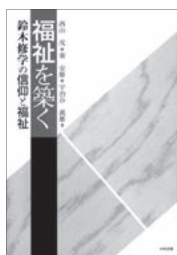
日本の福祉を築いた  
お坊さん

星野貞一郎著

中央法規出版刊

A6版/一六八頁

定価八六四円(税込)



福祉を築く

西山茂・秦安雄／

宇治谷義雄著

中央法規出版刊

A5版/二二三頁

定価三、六二八円(税込)





# 自説誓言

一人を導く功德は広大です  
是非一人は導きましょう

写真・法音寺大本堂

《山首上人の大荒行御成満奉告法要の砌》

## 日蓮宗大乘山 法音寺

〒466-0832 名古屋市昭和区駒方町3-3 TEL.052-831-7135  
http://www.houonji.com FAX.052-831-9801

講話日

毎月7日・17日・27日  
午後1時30分



### 法音寺の社会福祉・教育事業



徳を昭(あき)らかにし、徳を以って世間を照らす

#### 社会福祉法人 昭徳会

■児童養護施設

駒方寮  
名古屋養育院  
名古屋若松寮

■障がい児入所施設

小原学園

■障がい者支援施設

小原寮  
泰山寮

■特別養護老人ホーム

安立荘  
高浜立庄  
小原安立

■障がい福祉サービス事業

授産所 高浜安立

■軽費老人ホーム(特定施設入居者生活介護事業)

ケアハウス 高浜安立

■軽費老人ホーム

ケアハウス 大阪安立

■養護老人ホーム

養護老人ホーム 高浜安立

■自立援助ホーム

慈泉寮

■保育所

駒方保育園  
光徳保育園  
天王保育園

法人本部 〒466-0832 愛知県名古屋市昭和区駒方町4-10 TEL(052)831-5171  
http://www.syoutokukai.or.jp

我が如く等しくして異なること無からしめんと欲す

#### 学校法人 日本福祉大学

■日本福祉大学大学院

■日本福祉大学

■日本福祉大学中央福祉専門学校

■日本福祉大学附属高等学校

法人本部 〒470-3295 愛知県知多郡美浜町奥田会下前35-6 TEL(0569)87-2211  
http://www.n-fukushi.ac.jp

法音・平成29年12月号・No.578・平成29年12月1日発行

発行所・日蓮宗法音寺／制作・法音寺広報委員会

非売品／印刷・(株)一誠社